

研究資源共有化システム ニュースレター

第6号
2013年
3月25日

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 研究資源共有化事業委員会
Inter-University Research Institute Corporation National Institutes for the Humanities The Committee of Resource Sharing Project
<http://www.nihu.jp/sougou/kyoyuka/system/index.html>

古事類苑データベース(全文・抜粋検索版)

国文学研究資料館
古瀬 蔵

『古事類苑』は、日本の前近代の制度や文物などの事項を30部に分けて類書形式で編纂された百科事典である。2006年に国文学研究資料館のサイトから、テキスト版(全文テキスト閲覧用)と全文検索版(テキスト版データベースの全文検索用)の古事類苑データベースを公開した。しかし、『古事類苑』全体の分量は膨大であり、ルビ・返り点・割注・図・外字などテキスト化のための課題も多く、2011年時点で、データベースでの公開は、「天部」「歳時部」「地部」「稱量部」の4部に留まっており、さらに4部の追加公開の準備を進めていたものの、22部については未着手であった。

『古事類苑』全体の30部を網羅したデータベースの実現を期待する声に応えるため、2011年秋、全文検索版データベースから全文・抜粋検索版データベースへの拡張を開始した。図1は、国文学研究資料館webサイトの古事類苑データベーストップページ(<http://base1.nijl.ac.jp/~kojiruuen/>)から、全文・抜粋検索版データベースのページへのリンクを示している。全文・抜粋検索版データベースは、拡張前の全文検索版データベースが検索対象としていた全文テキストに加えて、全文テキスト化未着手の22部の抜粋テキストも検索できる。

抜粋テキストは、検索の入力キーワードになりそうな事項を多く含むよう、「総目録」「書名」「解説」「索引」を、『古事類苑』原本テキストから抜粋したものである。検索でのテキスト照合を重視するため、返り点や外字を使用していない。図2に抜粋テキストと、抜粋テキストに対応した検索結果の詳細表示の例を示す。抜粋テキストの検索結果は1ページ単位である。詳細表示では、検索にヒットした箇所、『古事類苑』原本のページを参照できるよう、国際日本文化研究センターの画像データベースへのリンク情報を提供している。図3は、全文・抜粋検索版データベースで、「林子平」を検索した結果一覧である。「地部」の全文テキストと、「政治部」「法律部」「兵事部」の抜粋テキストが検索結果となっている。

全文・抜粋検索版データベースは、2012年8月に公開したが、当時の抜粋テキストでは、「総目録」データのみ入力完了している状態だった。2012年度中に「書名」「解説」データの入力も完了させ、「索引」データの追加を継続し、抜粋テキストの充実化を図っていく。さらに、全30部を網羅するため、全文検索の対象を4部から8部に拡大させるよう全文テキストの作成を進める。また、古事類苑データベースは、改修や拡張のために統合検索システムnihuINTの検索対象から離脱していたが、2013年3月に全文・抜粋検索版でnihuINTに復帰予定である。



図1
古事類苑データベーストップページから
全文・抜粋検索版へのリンク

抜粋テキスト

ページ	部	篇	項	引用書名	編目位置	参考書名	編目位置	索引(本文)
1005	鼠							
1005				借詞探	前編六加			
1005								鼠を大こくの鼠といふは二語あり、大呂倉命にていへば、古事記に鼠の故事見たり、大栗氏にていへば、聖賢記に左手中鼠と見えたり、
1005						古事記	上	
1005				七瀬御考				

検索結果詳細表示

項目	内容
ID	042183
部	講談部五十
篇	借詞
種、行機文字	鼠
索引(本文)	鼠を大こくの鼠といふは二語あり、大呂倉命にていへば、古事記に鼠の故事見たり、大栗氏にていへば、聖賢記に左手中鼠と見えたり。
参考書名	〔古事記〕上
引用書名	〔七瀬御考〕
洋装冊数	2
ページ	1005

国際日本文化研究センターの画像データベースへリンク

図2 抜粋テキストと検索結果詳細表示

抜粋詳細(部 篇 種、行機文字 洋装冊数 ページ)

- 1 地部九 附小笠原島 名稱 //679~680ページ
全文テキスト / ID : 03090243
引用書本文 : ...ランバ、寛地島(三瀬)林平(平)イ
- 2 地部四十四 山下 蝦夷内浦遊 //889ページ
全文テキスト / ID : 03040367
引用書本文 : ...此内浦が蝦夷一なり、仙臺の林平、此内浦が蝦夷の事也、内...
- 3 政治部五十六 上書 上書論時政、海防意見 //洋装冊数3 //256ページ
抜粋テキスト / ID : 030216
索引(本文) 聖徳太子二十八年、所詔有林平者、倭賊之士也、東北、蘇我...
- 4 政治部七十二 開墾 開墾利害 //洋装冊数3 //1242ページ
抜粋テキスト / ID : 0311242
引用書名 (林平上書)(六平之助)
- 5 政治部九十四 勸農 雜載 //洋装冊数4 //992ページ
抜粋テキスト / ID : 040992
引用書名 (林平上書)(由女農志第 五)
- 6 法律部四十 墾居 墾居 //洋装冊数2 //583ページ
抜粋テキスト / ID : 030183
索引(本文) → 松平陸奥守家康(林平)命臣民皆喜甚、故、松平...
- 7 兵部一 兵法 兵法 //洋装冊数1 //1ページ
抜粋テキスト / ID : 131001
解説 : ...録等ハ大ニ世ニ行ハシム、其他林平(平)海國兵録ヲ著シテ、當ニ海防ノ...
- 8 兵部一 兵法 兵書 //洋装冊数1 //36ページ
抜粋テキスト / ID : 131036
索引(本文) 子左林平者、倭賊之士也、寛延四年五月...

図3 全文・抜粋検索版の検索結果一覧

日中戦争期中国研究文献データベース

中部大学国際関係学部中国語中国関係学科
大澤 肇

本データベースの基礎となったのは、2006年開催の日中戦争に関する国際共同研究シンポジウムにて配付された『最近5年間(2001~2005)の日本における日中戦争期中国(1931~1945)についての研究文献目録』である。この国際共同研究は、2002年以降、主として日米中三カ国とその他の国の研究者によって行われ、その成果はすでに4冊の単行本として、慶應義塾大学出版会より出版されている(『中国の地域政権と日本の統治』、『日中戦争の軍事的展開』、『日中戦争期中国の社会と文化』、『国際関係のなかの日中戦争』)。なおタイトルを「日中戦争期中国(1931~1945)」としたのは、日中戦争の時期区分自体ですでに日中双方の認識に隔たりがあるため、より広い範囲で研究や史料を採録しようという狙いから、満洲事変から終戦までの15年間を対象としたためである。nDPに収録されたデータベースと、2006年の文献目録では、問題意識や編集方法についてほぼ同様であるため、本稿では、まず文献目録について述べていきたい。

筆者はシンポジウムの日本側組織委員の一人であった平野健一郎氏(現・アジア歴史資料センター長、東京大学・早稲田大学名誉教授。元・人間文化研究機構地域研究推進センター長。当時早稲田大学教授)に依頼され、日本語で書かれた日中戦争に関する研究論文目録の作成を請け負うことになった。日中戦争は日本が主体的に関わった戦争であり、歴史研究は言うまでもなく、政策決定者から一般の兵士までの回顧録や復刻資料などの出版も非常に盛んである。しかし言語の問題もあり、海外の研究者にその存在が広く知られているとは言い難い。そのため残念ながら、日本側の先行研究や一次史料を十分に使っていない日中戦争に

関する研究が、英語圏や中国語圏で横行しているのが現状である。そのため全文は無理でもせめて日本側にどのような研究や史料があるか紹介するべきではないか、という問題意識のもと、筆者は過去5年間(2001~2005年)に出版された学術的な研究論文や復刻史料の書誌データ(作者、タイトル、採録雑誌、出版社など)を、日英中三カ国語で採録した文献の目録を編集し、日本でのシンポジウム開催時に配付したのである。この目録に採録された単行本・論文は全部で580タイトルに及んでいるが、①外国語から翻訳された学術書・史料集・論文、②初版と大きな変化がなく、再版あるいは文庫・新書化されただけのもの、③学術書に相当しないもの、④非売品及び私家版、の四種類に該当する文献データは収録されていない。

文献目録の編集にあたっては、歴史学界における最も著名な学術ジャーナルである『史学雑誌』に毎年掲載される日本史・東洋史研究についての文献目録、京都大学人文科学研究所から出版され、東洋学の先行研究を網羅的に採録している『東洋学文献類目』、そして中国関連書籍販売大手である東方書店が発行している『東方』誌のRecent Japanese Books on China欄から採録を行い、書誌事項等のデータをエクセルに打ち込んだ。その後原典をあたり、書誌事項のデータを確認するとともに、記載されている英文抄録を同様にエクセルに記録し、日英両言語による記載を参考に中国語に翻訳するというプロセスを経て、日中英三カ国語による文献目録を編集したのである。

データベース「日中戦争期中国研究文献」の構築にあたっては、上述した文献目録の編集方法を踏襲した。本データベースの構築助成を2010年秋に受け(申請タイトルは、

「最近10年間(2001~2010年)の日本における日中戦争期中国(1931~1945年)についての研究文献データベース」)、それから過去の文献目録に抜けがあるかどうかを調査したうえ、2006~2010年までの分を増補した。文献目録編集の時点でも、データの編集にエクセルを使っていたので、データベースの作成は比較的容易であった。また文献目録のデータベース化、ウェブ公開という媒体の変化を好機と捉え、電子ジャーナルなどでウェブ公開されている論文についてはURLも記載することで、利用者の文献へのアクセスを容易にした。

最後に、本データベースの課題について述べておきたい。構築時の問題意識からすれば、毎年のアップデートが欠かせないにもかかわらず、2011年春のアップ以来、データのメンテナンス、アップデートを行っていない点は問題であり、また宣伝も不足していることは否定しがたい。さらに、nDPのシステムは日英二カ国語には対応しているが、中国語など別の言語によるメニュー画面を作成することができれば、中国語ユーザーに、よりアピールすることができるであろう。今後の課題といえるべき点である。

項目	内容
Year	2007
ID	07095
Type	Article
Author(J)	大澤暲
Author(E)	OSAWA Hajime
Title(J)	近現代上海・江甯の小学教員層：一九二七～一九四九年
Title(E)	Primary school teachers as a social group in modern Shanghai and Jiangnen area: 1927-1949
Title(C)	*近現代上海・江甯的的小学教员:1927-1949年
Journal Title(J)	『中国・社会と文化』22
Journal Title(E)	CHUGOKU-SHAKAI TO BUNKA (China: Society and Culture) No.22
Publisher	中国社会文化学会
Pub Date	2007.6
ISBN/ISSN	09129308

データベースの検索結果。作者とジャーナルタイトルは検索のために日英両国語で記載されているが、中国語ユーザーが中味が類推しやすいように、論文タイトルは日英中三カ国語で記載されている。Title(C)の*マークは、論文自体に中国語によるタイトルが無い場合、独自に翻訳したものであることを示している。

2012年度の時空間システム活動概要

総合地球環境学研究所
関野 樹

時空間解析ツールの操作系の整理と英語版の構築

GT-TimeとGT-Mapを将来的に連携させ、資料や情報を時間と空間それぞれの面から可視化・解析する環境を実現することが構想されている。このための準備として、両ツールに共通する機能の名称や操作方法の統一が行われた。またこれと並行して、各ツールの機能を整理してより一般的かつ分かりやすい階層に再配置する作業も行われ、マニュアルを詳細に調べなくてもGISなどのソフトウェアを利用した経験があれば基本的な操作を行えるように改良した。

この他に時空間解析ツールの海外での利用への対応が進められた。これまで、GT-Timeは日本語、GT-Mapは英語を中心としたインターフェースであったが、両者とも日本語、英語の両方のインターフェースを搭載するとともに、操作マニュアルも日本語版と英語版を作成した。

派生ツールの活躍と成果の還元

時空間解析ツールは、フリーソフトウェアライセンス(LGPL)

により公開され、利用者はこれらの改変や改変したものの配布を自由に行える。一例として、GT-TimeとGT-Mapの開発にあたってアイデアの提供や助言を行っている有志の研究組織H-GIS研究会(<http://www.h-gis.org>)では、GT-TimeとGT-Mapをそれぞれ派生させたHuTimeとHuMapを開発し提供している。これらの開発成果はGT-TimeとGT-Mapにも還元され、HuTimeやHuMapに由来する新たな機能がGT-TimeとGT-Mapにも組み込まれている。HuTimeとHuMapは研究会のホームページ(<http://www.h-gis.org/>)やHuTime専用のサイト(<http://www.hutime.jp/>)で頒布されており、同サイトで実際の研究でのツールの利用事例や時空間の情報解析に必要な基盤情報なども紹介されている。

地名データの高度化

現在公開準備が進められている旧5万分の1地形図を利用した地名データについて、県-郡-市町村といった地名間の階層関係の情報の付与や他の地名データとの関連付けを行うための手法やデータ構造について検討が進められている。

2012年度の統合検索システム活動概要

人間文化研究機構本部
山田 太造

2012年度は研究資源共有化統合検索システムnihuINTのシステム更新を中心に、nihuINTへのデータベース追加や成果報告などを行った。

システム更新

2008年より公開しているnihuINTのシステム更新を行い、2012年5月7日に公開した。新システムの概要・機能・対象データベースについては、『研究資源共有化システムニューズレター第5号』を参考にされたい。現システムにおいて、「人物・組織別表示／地域・場所別表示」はベータ版としてリリースしているが、機能強化を行い、正式版として近々リリースする予定である。また他の機能もその強化を行う予定である。

対象データベース

システム更新後に追加したデータベースとして国立民族学博物館『梅棹忠夫著作目録(1934～)』の1件、2012年度中に追加予定のデータベースは国立歴史民俗博物館『文化財材料(色材)知識』および国文学研究資料館『蔵書印』の2件である。今後もデータベースを拡充していく予定である。

システム更新によりnihuONEを停止し、新たにnDP(nihu Data Provider)のサービスを開始した。nihuONEにおけるデータベースは基本的にはnDPで提供しているが、『生態史写真資料』および『生態史文献資料』は総合地球環境学研究所のデータベースとして提供している。

成果報告

2012年10月12日国文学研究資料館にて第7回人間文化研究情報資源共有化研究会が情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会との共催で行われた。この研究会にて新nihuINTの概要を報告した。また、2012年度画像電子学会第40回年次大会(2012年6月23日-24日)および人文科学とコンピュータシンポジウム(じんもんこん2012:2012年11月17日-18日)においてもnihuINTにおける機能や利用しているメタデータについて報告を行った。今後も学会・研究会等で成果を報告していく予定である。

統合検索システムに関連する成果報告

■ nihuINTによる人文学研究資源の情報統合

山田 太造(人間文化研究機構)
古瀬 蔵(国文学研究資料館)
画像電子学会年次大会予稿集
vol.40th, pp.T1-4, 2012年

■ nihuINTにおける人文科学研究資源の探索支援

山田 太造(人間文化研究機構)
古瀬 蔵(国文学研究資料館)
安達 文夫(国立歴史民俗博物館)
第96回人文科学とコンピュータ研究会発表会
vol.2012-CH-96, No.9, pp.1-8, 2012年

■ 網羅性を重視した古事類苑データベース

古瀬 蔵(国文学研究資料館)
相田 満(同)
山田 太造(人間文化研究機構)
第96回人文科学とコンピュータ研究会発表会
vol.2012-CH-96, No.10, pp.1-8, 2012年

■ 統合検索システムnihuINTと古事類苑データベース

古瀬 蔵(国文学研究資料館)
国文研ニュース, No.29, pp.4-5, 2012年

■ 人文科学データベース統合検索のためのメタデータとその応用

山田 太造(人間文化研究機構)
山本 泰則(国立民族学博物館)
古瀬 蔵(国文学研究資料館)
安達 文夫(国立歴史民俗博物館)
じんもんこん2012論文集, vol.2012, no.7,
pp.71-78, 2012

CONTENTS

古事類苑データベース(全文・抜粋検索版) 古瀬 蔵	1
日中戦争期中国研究文献データベース 大澤 肇	2
2012年度の時空間システム活動概要 関野 樹	3
2012年度の統合検索システム活動概要 山田 太造	4

研究資源共有化システム ニューズレター 第6号

発行日 2013(平成25)年3月25日
発行・編集 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
研究資源共有化事業委員会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-13 神谷町セントラルプレイス2階
TEL 03-6402-9200(代表)